



## EAワークショップ

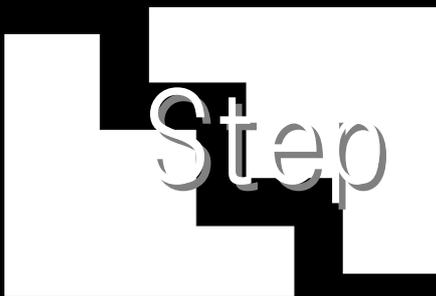
# 評価力を上げるための目的・ 計画の作り方&指標の選び方



Evaluability



Assessment



Step 1, 2, 3

**日時** 平成28年1月

28日(木) 13:00~18:15

29日(金) 10:00~16:00

(受付は両日とも30分前に開始)

**場所** 学術総合センター-11階

(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

大学評価・学位授与機構

竹橋オフィス1112会議室

**参加費** 無料

(情報交換会は会費制「2000円」)

**定員** 36名

(定員の都合上、先着36名まで)

### 想定する参加者

今回は、初めての試みとして、**ステップ1から3まで2日間**をかけて研修を行います。したがって、本研修にかかる予備知識、経験の有無を問いません。もちろん、受講経験のある方も歓迎いたします。

### 申し込み方法

申し込みは、以下の【必要事項】をご記入のうえ、[hyokikaku2@niad.ac.jp](mailto:hyokikaku2@niad.ac.jp) 宛にメールにてご送付ください。

【必要事項】(1)お名前、(2)ふりがな、(3)所属機関、(4)所属部署、(5)役職・職名、(6)電話番号、(7)メールアドレス、(8)情報交換会の参加の有無、(9)評価や計画との関わり(班分けの際の参考にさせていただきます)ので、ご記入ください。

# ワークショップのねらい

大学評価・学位授与機構のEA(Evaluability Assessment)研究会で開発している教材及びコンテンツを基に、評価力を向上させるための基本的な視点を学ぶとともに、計画立案段階で現行の課題や問題を可能な限り把握し、適切な指標等の設定を行うためのワークショップを開催させていただきます。

本ワークショップでは、計画の作り方と適切な指標の設定に焦点を当てます。また、地域連携に係る新たな演習課題を設定するとともに、従来のEA教材を用いて指標を選定したうえで、選定された指標の信頼性や妥当性を確認するためのチェックリストを紹介し、その使い方についても議論します。

表1：EA教材の各段階と獲得することが期待されるスキル

段階	EA教材の内容	獲得することが期待されるスキル
ステップ1	関係者（ステイクホルダー）の把握、課題の分析	○自らの大学の現状と課題を体系的に整理する思考方法やスキル ○教育の質向上という視点で、大学の諸活動の中から課題を発見し、その周辺の因果関係の整理を行うことができるスキル
ステップ2	目的の整理、計画の作り方	○目的を体系立てて整理する思考方法、目的体系図から計画アプローチを見出すスキル ○因果関係を逆にたどることで、課題解決のためのアプローチを考えることができるスキル
ステップ3	指標デザインとデータの整理	○ステップ1 & 2で考案した課題解決のためのアプローチ（課題を解決するという目的に沿った計画の作り方）に対して、適切な指標を提案するスキル
ステップ4 〔ツール構築中〕	効果的・効率的な評価	○評価の目的を明確にし、協力体制の構築や評価結果を有効に活用するためのマインドセットに繋げるスキル

# タイムテーブルと研修内容

1月28日 (木)	13:00~13:15	主催者挨拶及び趣旨説明
	13:15~14:15	講義1：EAツールの紹介
	14:15~14:30	休憩
	14:30~17:15	演習1：ステップ1と結果発表 ○架空の大学の演習課題を基に課題を整理・分析して計画を考えていただき、その結果を発表していただきます。
1月29日 (金)	17:15~18:15	演習2：ステップ2 ○演習1の課題系図を基に目的系図の作成、実行プロジェクトの選定等を実践していただきます。
	18:15~19:15	情報交換会（任意参加）
	10:00~10:50	1日目の振り返りと演習2の結果発表 ○演習2の作業完了と、その結果を発表していただきます。
	10:50~12:30	演習3：ステップ3 ○演習2の作業結果を基に目的・計画にあった指標設定に係る作業を実践し、その結果を発表していただきます。
	12:30~13:30	昼食・休憩
	13:30~14:20	演習3：ステップ3と結果発表 ○演習3の作業完了と、その結果を発表していただきます。
	14:20~14:30	休憩
	14:30~15:20	講義2：指標の信頼性・妥当性の確認 ○演習3の作業結果を踏まえて、指標の信頼性や妥当性を確認するためのチェックリストを紹介させていただきます。
	15:20~15:45	グループワークの振り返り
	15:45~16:00	総括

表2：各段階における研修内容

<p><b>ステップ1：関係者の把握、課題・問題の分析</b> ・関係者を把握し、大学における諸活動から課題を発見します。課題を複数挙げ、その課題の原因を考えつつ、課題（原因→結果のペア）をグループ化していきます。 ・途中で、中心的な問題が見えてきますので、それを中心に各グループに関連づけていきます。（中心になる問題をどう設定するかは、グループのメンバーの考え方や活動を取り囲む環境によって異なります。） ◇これらの作業によって、各課題の因果関係を明確にします。</p>
<p><b>ステップ2：目的の整理、計画の作り方</b> ・ステップ1で分析した「原因→結果」を「手段→目的」とリバーシさせることで「こういう原因でこういう課題が発生している」ということが「ここをやれば、この課題が解決できる」という図になります。この図を目的系図といいます。 ・目的系図は、いくつかの課題をひとまとまりにし、グループ化したわけですが、課題が適切に関連づけられた目的系図があれば、「改善計画」が見出しやすくなります。 ◇課題を原因と結果の因果関係で整理することで、解決と改善のアプローチを見出します。</p>
<p><b>ステップ3：指標デザインとデータの整理</b> ・改善計画を実施する際の指標を考えます。課題は「目的→手段」という単位で最初に整理をしているため、この単位ごとに指標を考えていきます。 ◇指標を設定すれば、あとはその指標が現在どうなっていて、それをどうしたいのか、ということによって改善計画を現実化し、それに沿って行動できます。この指標を用いて進行管理をするという、評価担当者の責務を果たすためのヒントを見出します。</p>

※演習の班分けについては、運営をスムーズに進めるため、事務局で行います。また、研究会メンバーが各班のファシリテータとして参加させていただきます。

<問い合わせ先>

大学評価・学位授与機構 評価事業部 評価企画課 企画第2係

Tel : 042-307-1617 / Fax : 042-307-1622 E-mail: hyokikaku2@niad.ac.jp